

令和7年度 西多摩保健所地域精神保健 福祉ネットワーク会議について

【目的】 精神保健医療福祉に関わる地域関係者と地域課題を共有し、西多摩圏域の特性やニーズに応じた地域精神保健福祉活動を総合的かつ効果的に推進する。

【日時】 令和8年1月29日（木曜日）午後2時から4時

【出席者】 市町村障害主管課、地域活動支援センターI型等、精神科医療機関、多摩総合精神保健福祉センター、保健所

【テーマ】

支援困難事例を支えるネットワークの構築と地域課題の共有～相談から見えること～

【内容】

- (1) 西多摩圏域における精神保健福祉の動向、精神保健福祉法第23条警察官通報の状況
- (2) 事前アンケートの共有（支援困難事例、連携、事例検討）
- (3) 精神障害者地域活動支援センターフィレ（あきる野市）からの事業報告
- (4) 羽村市健康課から事例検討会等の報告
- (5) 意見交換



情報共有

精神保健福祉の動向他（西多摩保健所）

- 圏域の特徴は広域で精神科医療医療資源が少なく、生活圏から遠いため、精神科医療へのアクセスがしにくい。
- 高齢化の進行で、高齢・精神課題・生活課題の重なりが起きやすい。
- 人口減少と高齢化により「資源を増やす」よりも人の判断力・連携力で支える構造が不可欠である。
- 専門医療機関がないことで、困難事例も他圏域とは異なるという参加者からの意見もあった。
- 精神保健福祉法第23条の被通報者や措置入院患者への支援の現状も伝えた。

事前アンケート結果



【支援困難事例】

- ①多問題事例（支援拒否や情報不足、8050問題に関連、家族機能不全、キーパーソン不在等）
- ②知的障害・発達障害等の合併
- ③法制度の狭間

【事例検討】 ほぼ全市町村に事例共有の場がある。形態は様々。

【連携】 相互の支援内容や活動目的の理解に工夫。継続的に連携が課題。

• 事業報告

(精神障害者地域活動支援センターファイル)

- 西多摩圏域は資源が少ないからこそ、市内にとどまらず連携が必要で、それは強みでもある。
- 市役所を中心に関係機関と日常のやり取りによる情報共有を頻繁に行うなどが連携の実際である。
- 市内の医療機関からは、20年を超えて仲の良い連携がとれていることが追加された。



• 庁内ネットワークの構築に向けた事例検討会

(羽村市健康課)

- 運営面では開催通知の発送や事例の担当者の参加調整、自殺対策に位置付けた事例検討にした。
- 事例検討会の進め方を事例に基づいて紹介した。
- 一緒に考え支援し、相互理解を深めることが庁内連携のポイントである。

意見交換

事前アンケートや情報共有を補足する形で、発言があった。

- 連携については「断らない相談に努め、色々な方と協働すると良くなる。」
「状況が落ち着くと支援機関が一つになり行き詰まりも感じる。」など。
- 事例検討については、「小グループでストレスがない。」「事務職の不安も軽減する。」「基幹相談支援センター中心に支援者支援として事例検討を学んだ。」「保健所の事例検討も活用を」など。

まとめ

- 事例検討や連携については、意見交換の場で共有された知見を今後の対応に活かしていく。
- 各支援機関が有する職権・役割等の支援レイヤー（医療・社会・生活・権利擁護等）を相互に理解したうえで補完し合う体制を構築することで、有効な連携が立ち上がるものとする。（「顔の見える関係」の深読み）
- 制度の狭間にある支援については、各制度の趣旨も踏まえ、合理的な裁量の行使や他制度の援用を通じて適切な対応を行うものとする。